



価値多様化時代——「トライ&エラー」を楽しむコミュニティ・スクールに

学校運営協議会委員・東京学芸大学准教授 入江 優子

今日、中学生は「義務教育の仕上げ段階」といっても「まだまだ高校・大学と長い道のり」と思う方も多いでしょう。しかし、僅かに70年余り前、戦前の義務教育は6年間で、「中学校」への進学者は男子の10%にも満たなかった*1、と聞くと驚く方もいるのではないのでしょうか。また、日本が戦後取り入れた初等教育から高等教育までを一本に貫く「単線型」の学校体系を採用しているのはアメリカのみ*2で、欧州では中等教育段階などで職業教育と高等教育進学の間が分かれる「分岐型」(又は複線型)が主流である、と聞くと「へえ」と思う方もいるでしょう。

学校制度は時代や社会の在り様とともに変化するものです。今日、改めて職業教育の充実や、いわゆる飛び級・留年などの学校制度の柔軟化への関心も各国で高まっています。そして、グローバル化が進む時代を生きる中学生の皆さんは、異なる学校制度の中で育った人々と仕事を共にしていくことになるでしょう。いずれの時代・社会においても、中学生は社会との関わりの中で自己を見つめていく重要な時期といえます。

私は、現在、社会教育学という学問領域の立場で大学教員をしながら、今年度より学校運営協議会委員となりました。主な関心は「社会」と「教育」の関係性にあり、特に学校教育と「広く社会における教育」の繋がりに思いを寄せています。向陽中学校が杉並区でいち早く導入し、全国でも広がりを見せる「コミュニティ・スクール」の仕組みもその一つです。

例えば、私は東日本大震災で被災した岩手県大槌町の学校再建にも長年関わらせていただきました。大槌町では人口の約10%が亡くなり、家屋の60%が被災、仮設住宅入居により地区コミュニティが崩壊する事態となり、小中学校7校中5校が使用不能、家を失った児童生徒も60%を越えました。そんな中、学校再建の柱に挙げたのが「コミュニティ・スクール」です。学校のカリキュラムに「ふるさと科」を設け、基幹産業である水産業や被災した店舗の再建を、生徒が取材したり、大人と共に体験したりする学習を通して、町の産業・コミュニ

ティ再生にも貢献しながら生き方・進路を主体的に考えていく学習づくりが柱となりました。現在では、義務教育最終学年の中学3年時には、全員が「語り部」として、「ふるさと」や「生き方」について表現しようという目標を持っています。実は、その立ち上げを陰で支えたのは、震災直後から支援に入り、今も大槌町で活躍する杉並区のキャリア教育NPOや杉並区のスクール・ソーシャルワーカーでもあるのです。

今日、変化が激しく価値が多様化する時代において、災害だけでなく日々の生活においても「当たり前」が変わる瞬間は多々あるでしょう。また、異なる文化・経験を持つ人々との関りは益々日常的なものとなります。その時自ら「動ける」「表現できる」人間になれるかどうかは、日頃から「今ならではの自分」として社会と関わり、様々な生き方に触れ、自分の思いとの相互作用の中で「とにかくトライしてみる」経験の蓄積に他なりません。

伝統ある向陽中学校では、地域の講師による土曜授業や放課後の「Café勉」、プロフェッショナルによる部活動サポート「K O Y O わくわくレッスン」など、社会で幅広く活躍する方との素晴らしい出会いの機会が設けられています。こうした取組に生徒の皆さん自身の企画を取り入れ、生徒の皆さんの関心と実践を橋渡しする、失敗も皆で楽しむ、そんな「トライ&エラー」溢れるコミュニティ・スクールを、生徒、教職員、保護者、地域の皆様とともに創っていかれたらと思っています。

(東京学芸大学准教授)

*1 昭和15年時点では、高等女学校、実業学校を含む中等教育機関への進学率で算出しても約25%でした。
*2 現在の日本は、高等専門学校なども設けられ、一部分岐型となっています。



学校運営協議会 活動報告(10月～2月)

【第7回 10月19日(金)】

・委員より、講師紹介をした土曜授業の教員による評価を示してほしいとの要望が出された。

→次回以降の企画に反映させるため。

・一般教職員、管理職(校長・副校長)の任用に関する意見提出。

・委員より、外部講師による合唱練習時間が短いとの声について検証が必要との意見が出された。

・発生したいじめ案件に対し、学校が正面から受け止めルールどおり「いじめ防止対策委員会」の場で協議するよう学校側に申し入れた。

【第8回 11月26日(月)】

・委員より、生徒の挨拶が少なくなったと見えるので確認・徹底をお願いしたいとの要望が出された。

・いじめ防止対策委員会報告がなされた。

・保護者および生徒アンケート調査結果の保護者向け説明会の報告がなされた。

・「学校運営協議会だより」「あゆみ」発行について検討。

【第9回 12月20日(木)】

・臨時保護者会開催(12月19日)の報告を受ける。

・学校運営協議会だより28号を配布。

【第10回 1月8日(火)】

・不登校生徒について報告を受ける。

・向陽中ホームページについて検討。

【第11回 2月21日(木)】

・生徒会が置き勉に向けた取り組みを進めているとの報告を受ける。

・スキー教室が、インフルエンザの感染も収まり、無事に終わられたとの報告を受ける。

・委員より、教員との合同研修会について、生徒が参加するテーマの検討を依頼。

・9月1日に学校運営協議会から教育委員会宛に「体育館空調設備設置」の要望書を提出したが、それに対する区の回答により、向陽中は平成32年度にエアコン設置予定と報告があった。

平成30年度 土曜公開授業講師紹介

昨年度行われた開校70周年記念講演「ようこそ先輩」にて卒業生9名による講演が好評だったこともあり、今年度も、土曜授業の「総合的な学習の時間」にたくさんの方々から「卒業生・地域の方々による授業」をしていただきました。今後も継続して卒業生や地域の方々に来ていただく予定です。※敬称略

■4月21日(土)

- 2年 荒木伸泰(音楽事務所代表取締役)
小島万由美(インテリア・コーディネーター)
大瀧晴之(治療院院長)
- 3年 植松愛美(経済産業省)
塙創平(弁護士)
齋藤敬(音楽事務所経営)

■7月14日(土)

- 1年 村越義男(杉並消防団団長)
村越幹弘(太平建材専務取締役)
入江優子(東京学芸大学准教授)
- 2年 地域協力者 15名

■9月8日(土)

- 3年 櫻井誠人(JAXA)
内丸摂子(テレビドラマ・プロデューサー)
西沢七瀬(脚本家)

■2月16日(土)

- 2年 河原成孝(アーティスト・マネージャー)
櫻井誠人(JAXA ※本年度2回目)
齋藤敬(音楽事務所経営 ※本年度2回目)



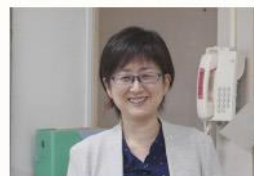
村越義男さん



村越幹弘さん



西沢七瀬さん



内丸摂子さん



櫻井誠人さん

平成30年度 生徒並びに保護者アンケート調査結果

7月に配布いたしました学校運営協議会アンケートにご協力ありがとうございました。このアンケートは、2005年4月の委員会設立時より続けており、今回で14回目となります。定点観測により変化の兆しを感知し早期に問題解決・予防につなげるとともに、保護者の皆様の自由な意見をうかがうという意義があります。回答は学年別等でも分析し、目立った変化がある項目は校長先生に対応をお願いしております。

昨年11月に「生徒並びに保護者アンケート調査結果のポイント」を配布し、併せて11月16日に「保護者へのアンケート調査結果報告会」を開催しました。

1. アンケート結果説明の重点ポイント

<授業>(生徒による授業充実度評価)

- ・科目別にみると「音楽」「技術」はすべての学年でポイントが低く、「技術」は低下が続いている。一方、改善が見られる科目もある。問題ある科目は、校長先生を通じて対応をお願いした。
- ・1年生は昨年度1年生に比べ、ポイントが大きく(2桁)下がっている。また、1年生の授業に対する取り組み姿勢に関する項目も昨年に比べ15ポイント以上低い項目もある。この点に関しては、授業視察を含め、校長先生にフォローをしていただく。

<家庭学習>

- ・「学校運営計画」には「最低1時間」と盛り込まれている。しかし「一日1時間未満」の回答が、2年生は1年生時から20ポイントも増加し、1年生は昨年度1年生と比べ倍以上になっている。特に1年生は家庭学習の習慣を身に付けることが重要である。

他に、<読書><部活動><携帯・スマホ><ネット弊害><いじめ><自由記述>等を説明。

2. 意見交換および考察

- ・校長先生より、授業の充実度は、教員の異動があると前半は下がる傾向にあると説明があった。
- ・家庭学習には塾関連の時間を考慮する必要があるのでは、という意見が出されたので検討課題とする。
- ・2年生に関し、アンケートでもいじめの回数が1年生時に引き続き2年生になっても全校の中で多い傾向があった。校長からは、やや中だるみがあったが、合唱コンクール・スキー教室・生徒会等、確実に成長していると説明があった。
- ・教材が重いことについては、生徒会の活動として置き勉の試みがなされている。一方教科書の上下分冊・軽量化等も行政へ働きかけをしてほしいとの意見があった。
- ・毎年いる不登校生徒についての対応は、担任と保護者との連携、スクールカウンセラーや済美教育センターとの連携、杉並区の「さざんかステップアップ教室(適応指導教室)」(注)、フリースクールの利用等があり、状況に応じて選択しつつ対応していると説明があった。

(注)区内で不登校状態にある児童・生徒の支援を行う教室。中学生対象は、天沼・和田・宮前の3教室がある。

今後の課題として

- 1) 環境変化に対応した質問項目の改訂
- 2) 既に行われている学校運営協議会委員と保護者との話し合いに参加した人は有意義であったとの意見が多いことから、これからも多くの保護者の参加を期待していきたい。



アンケート結果の詳細は、東口昇降口、西口昇降口、ひまわり教室前の3か所に掲示しています。

地域と学校

向陽中学校ホームページがリニューアルしました。それに伴い、コミュニティ・スクールである向陽中の「地域連携」の内容についても見直し、「学校運営協議会」「学校支援本部」「PTA」「KSCC」「地域と学校」の項目に分けました。ぜひご覧ください。

トップページ

学校運営協議会のページ

支援本部だより

教育委員会へ提出した意見・要望と回答 (平成30年度)

【杉並区教育委員会への意見・要望】
 ●体育館への空調の設置について
 今年度は順手に済み、これが一時的な現象ではなしとの認識も意の中に定着しました。暑さのため、緊急対応センターでの体育館の使用が増え、空調設備の有る体育館の活用を促すなどとして一部解決している状況です。暑さによる事故が起った場合は高いと五分五分程度の教員や保護者から上がっています。
 次年度には避難場所になることも充分考慮して区全体として検討頂き、体育館に空調を設置して頂くようお願いします。
 ※学校体育館のエアコン設置は、杉並区立小中学校全体の課題と捉えており、来年度以降、順次実施していくこととしています。向陽中学校につきましても、実施時期は未定ですが、設置を計画しています。
 エアコン設置につきましては、普通教室、特別教室に続き、体育館についても設置に向けて引き続き検討してまいりますので、御中へご理解いただきますようお願い申し上げます。

←「杉並区教育委員会への意見・要望と回答」は東口昇降口掲示板、ひまわり教室前にも掲示しています。

今年度で任期を迎える委員からのメッセージ

皆様のご協力に感謝し、任期8年の定年を迎えます。この間、向陽中が「挨拶ができ、仲が良く、明るい学校」と保護者や生徒の皆様から評価を受け続けたのが印象的でした。今後もケニアの無料診療などの活動に励みます。

荒川 幸雄
 (卒業生、前学校運営協議会会長)

今年度で任期満了となりました。皆様にご理解とご協力頂き感謝申し上げます。学校運営協議会委員としてどれだけお役に立てたのかわかりませんが、学校経営の一端を見させて頂き、少しは成長したように感じています。生徒が大好きな向陽中学校となりますように！ 有難うございました。

村上 久美子
 (元PTA会長、学校支援本部事務局長)

PTA会長になったと同時に協議会の一員になってから7年が経ちました。おかげさまでメンバーの皆さんに恵まれて、大変有意義な時間を過ごしました。今後は違う立場で、お役に立てるように活動していきます。ありがとうございました。

十亀 章子 (元PTA会長)

協議会というルールの下で偏らない見方をし、向陽中の生徒や教職員をバックアップする姿勢には学ぶべきことが沢山ありました。お役にたてたかは甚だ疑問ですが私的にはとても有意義な5年間でした。ありがとうございました。

林 久美子 (元PTA会長)

学校のこと、地域のこと、子どもたちのこと。多くの「支える力」を知ることができた1年でした。今後も地域の一人として、向陽中学校を応援していきたいと思えます。ありがとうございました。

塩田 明子 (PTA会長)